

地域と家庭と学校が一つになって子どもを育む…それが“チーム七小”です！



くさぶえ

福生市立福生第七小学校
令和7年度 学校だより

福生第七小学校
ホームページ
URL



<https://fussa-7e.hs.fussa.school/>

所在地 福生市北田園一丁目1番地1

発行責任者 校長 菅野 恭子

令和7年8月27日 発行

自己を成長させ 実り多き2学期となるために

～ 自ら問いをもつ力を ～

校 長 菅野 恭子

長い夏休みが明け、本日からいよいよ2学期が始まりました。今年度は、夏季休業期間中に児童の大きな怪我や事故等の報告が無く、元気な姿を見ることができ、教職員一同大変嬉しく思っています。これも、保護者や地域の皆様が子どもたちの安心・安全を丁寧に見ていただいたお陰です。今年の夏も危険なほどの猛暑が続きましたので体調管理が大変だったと思います。本日から全教職員で児童の様子を見ていきます。少しでも気になることがありましたら担任等にいつでもご連絡ください。

「実り多き2学期となるために ～自ら問いをもつ力を大切に～」

2学期は1学期と比べて10日程度授業日数が多いとともに、行事も増え教科等の学習では深く思考する場面や発表する機会も多くなります。1学期に意識したことを基に、2学期は自分で自分を律しながら高めたり、個々に合った目標を定め、挑戦を重ねることで達成感を味わい自信をつけたりしていきます。

取り組む活動や考える内容が多くなり、一定の結果が出るまで時間がかかることが増えてくるからこそ、気力や体力が一層必要になるため「自ら問いをもつ力」を更に育てていきたいと考えています。

やるべきことを確実に行うことはもちろん大切です。しかし、「言われたから取り組む」という受け身では、必要性が薄れ取組が形骸化したり途中で途絶えたりしてしまいます。だからこそ、「なぜこれが必要なのか」という「自ら問う」意識をもつことで、一つ一つの行動に意味を見出し、納得することが意欲の継続につながります。子どもたちが社会に関わる年齢になったとき、多様な課題と直面することが多くなります。その際、多くの意見に安易に流されずに、真意を見極めて判断・行動できるためにも、「身の回りの様子に意識を向け、どれだけ課題意識をもてるか」「課題を捉えて、自分なりの改善案を考えられるか」「自分が考えた改善策をどれだけ実行できるか」が大切であると考えます。

課題に向き合うこと、自分に向き合うこと、挑戦し乗り越える経験等では、壁にぶつかることもありますが、それを乗り越えられたとき、大きな自信となり次への一歩にもつながります。2学期は1学期から学んだことが成果として現れる「実りある学期」と言われます。一人一人が自分の力で自分を高めていけるよう、「自ら問う力」を高め、実り多い2学期となるように教職員一同取り組んでいきます。

学校では家庭の様子も踏まえた上で指導・見守り等を適宜行っていきます。学校と家庭等で見せる児童の様々な姿を理解した上で指導を重ねることが本人の成長につながります。保護者の皆様には、学校行事や公開授業、学年ごとの授業お手伝い等、来校される機会を多く活用していただき、お子さんの頑張りを励ますとともに、学校へ家庭での様子もお伝えください。

【安心・安全な学校生活のために】

2学期の始業を前に、校内では「食物アレルギー対応研修」や「不審者対応訓練」を実施しました。AEDの使用訓練と同様に、定期的に全教職員で不測の事態を想定し実際の行動シミュレーションを行っています。不審者対応訓練では福生警察署の方にお越しいただき、実践訓練を行いました。

本校では、対応訓練以外にも日頃から地域の様々な機関と連携し、情報共有や対応の連携を行っています。今後も児童の安心・安全を守るために連携を深めていきます。



不審者対応訓練：福生警察署の方々